

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900488
法人名	吉田興産有限会社
事業所名	グループホームさくら
所在地	愛媛県北宇和郡鬼北町大字内深田1067番地2
自己評価作成日	平成29年1月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然に囲まれている場所に位置しており、桜やコスモス、紅葉等、季節感を肌で感じることができる場所にあります。
施設、庭も広く作られており、エレベーターやリフト浴等の設備も充実しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

この一年間、地域との交流に力を入れて取り組んだ。管理者は地域の役員を務めており、職員は夏祭りの協力や秋祭りの神輿のかき手になる等、地域活動に参加している。他介護施設の納涼祭に参加した。昨年は、四国八十八ヶ所お砂踏みを行い、地域の方にもチラシで知らせ一緒に行った。地域の方が、隣接施設裏の畑の世話に来てくれている。事業所の周りは夜間は暗いため、地域の方から「玄関周りに電灯を点けておいてもらえるとありがたい」と要望があり、夜間に玄関灯等を点けている。
午前中は外に出て過ごす時間を持つよう支援している。調査訪問時には、歩行器を使って飼いがいる場所まで様子を見に行く利用者の様子が見られた。季節ごとに花を見に行ったり、外食や道の駅、足湯等に出かけている。
「わしはここにおる」という利用者本人の意思表示や家族の希望等を踏まえて、かかりつけ医と連携して看取り支援した事例がある。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームさくら

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏名 富永久

評価完了日 2017年 1月 9日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 身につけやすい玄関に掲示することで、毎日確認をしながら日常生活のケアを行っている。	
			(外部評価) 「笑顔 思いやり」と理念をつくり、玄関等に掲示している。又、職員が使用するトイレには「笑顔 言葉遣い」と掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 季節の行事や地域活動への参加、小学生との交流等を行うことで関わりをもつことができている。また、近隣の方とは野菜の交換なども行っている。	
			(外部評価) この一年間、地域との交流に力を入れて取り組んだ。管理者は地域の役員を務めており、職員は夏祭りの協力や秋祭りの神輿のかき手になる等、地域活動に参加している。他介護施設の納涼祭に参加した。昨年は、四国八十八ヶ所お砂踏みを行い、地域の方にもチラシで知らせ一緒にいった。地域の方が、隣接施設裏の畑の世話に来てくれている。事業所の周りは夜間は暗いため、地域の方から「玄関周りに電灯を点けておいてもらえるとありがたい」と要望があり、夜間に玄関灯等を点けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) IPUの学生の自習受入と指導をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) グループホームの現在の状況やサービス提供情報等を報告している。 また、事故報告の際には再発防止策を検討していただき参考にしている。</p> <p>(外部評価) 会議は、地域の方や行政の都合等に合わせ、平日の日中に行っている。管理者と地域メンバーとの関係ができており、事業所から現状・事故報告等を行った後には、報告内容をもとにしたざっくばらんな話し合いとなっている。利用者は、毎回1名が参加しているが、家族は、「こらえてほしい」という方や遠方に住む方が多く、この一年間は参加に至っていない。事業所では、地域との交流に取り組む中で、地域の方達の認知症の理解については、まだ課題があると感じている。</p>	<p>事業所の専門性を活かし、今後さらに、会議を通じて認知症の理解を深めていけるような取り組みもすすめてほしい。又、家族の事情もあるだろうが、事業所運営について家族の意見を聞けるような取り組みにも工夫を重ねてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市町村からは研修等の情報提供や介護保険状況報告を受けている。 事業所からは空き状況を報告し待機者の負担軽減をしている。</p> <p>(外部評価) 町の担当者が運営推進会議に参加しており、事業所の活動報告等を聞き、又、情報提供等がある。職員は、北宇和病院の地域連携室が主催する介護、医療関係者が集う会に参加して勉強したり、意見交換を行っている。短大の学生の実習やボランティアを受け入れており、就職につながった事例もある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 研修会への参加はもちろんのこと、職員が参加しやすいように事業所内研修を実施している。 安全上やむを得ない場合はご家族様に相談し理解の上許可を得ているが、職員一同ケアに工夫をして身体拘束のないケアに努めている。</p> <p>(外部評価) ひとりで出かけて行こうとする利用者には職員が付き添い、本人が納得いくような対応に努めている。時に暴力的な態度になる利用者については、カンファレンスを繰り返して対応を検討し、支援してきたが、他利用者への配慮も踏まえ、地域包括支援センターやかかりつけ医と相談し、様子をみていくことを検討していた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての研修の機会を設けて、虐待防止の徹底を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部の研修会に参加したり、社内研修の機会を設けることで周知を図っている。 また、相談等があった際には、必要に応じて支援をする体制が整っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書、重要事項説明書に添って説明している。その際、不安なことや疑問に思うことなど詳しく聞き取りを行い納得されるまで説明をしている。 介護報酬改定の際には、説明を行い同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約の際に苦情受付の説明を行っている。また、苦情受付の第三者機関を掲示したり、意見や要望を投函できる意見箱を設置している。 面会時等に意見や要望がないかこちらから声かけをするようにしている。 (外部評価) 季節ごとに、A3用紙で「さくら便り」を発行しており、外出やイベント等の様子を報告している。毎月送付する書類の中には、1ヶ月間のバイタルサイン、食事量等をまとめた状況報告書を同封している。花見を行う際には家族にも案内をしており、少数ではあるが参加がある。今回の家族アンケート結果をもとにして、家族とのさらなるつながり作りに向けての取り組みをすすめてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 自由に意見や提案をだせるように気づきの箱を設置している。 また、意見をだしてもらっただけでなく職員に意見や要望等がないか聴く姿勢にも努めている。	
			(外部評価) 職員と信頼関係ができて前管理者(現在は隣接する施設職員)が、「職員負担相談」等の窓口になっている。又、職員の「気づき箱」を設置しており、職員からは備品の充実についての提案がある。現在、外部研修を受講する職員は少ないが、事業所内では、新人職員からのケアへの質問をもとにして、皆で勉強する機会を作っている。又、外部講師等を招き、勉強会を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の職員に適した勤務体制を整えたり、話し合う機会を設け要望等を聞いている。 雇用管理チェックシート等を活用し定期的に見直しを図っている。 また、ストレス軽減対策担当者を設けてストレスなく働ける環境をつくるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内をスタッフルームに掲示し、参加する際には勤務や金銭面で配慮している。 資格取得の際の相談支援にも務め、手助けもしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他事業所の勉強会や行事ごとに参加したり、当事業所のイベントに参加していただくことで交流を図っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に見学していただいたり、入居前に本人様、家族様の要望等を把握することで、入居の際に生活しやすい環境配慮に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを利用するにあたり、家族様が抱えている悩み等を聴き安心して入居していただけるように支援している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) すぐに入居するのではなく、本人様や家族様が今一番必要とされているサービスの支援ができるように他のサービスも含めた話し合いを行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に過ごし、学び、支え合う関係を築いていけるように心がけている。 また、個々や体調に合わせた家事等をしていただいている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には状態等の報告をするとともに、月に1回、日々の様子を綴った状態報告書を作成し送付している。 面会や外出、外泊を自由に行うことができ、また面会者が宿泊できる環境も整えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 来訪することが難しい方には、事業所で送り迎えをしている。 自宅を見に行ったり、所縁の場所への外出支援を行っている。 大勢の方が面会に来られても落ち着いて話をするのできる場の提供や、遠方の方には宿泊できる場所も整えている。 (外部評価) 利用者からの言葉をもとにして、懐かしいお菓子を買に行ったりしている。クリスマス会等には、家族に依頼してひ孫さんを連れて来てもらい、一緒に楽しめるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	個々の性格や気持ちを理解し、必要な際には職員が間に入ることで利用者様同士の関わりが築いていけるように支援している。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	退居後であってもいつでも相談ができ、必要に応じて必要な支援ができる体制を整えている。 入院退居された方には、洗濯やオムツ購入等の支援を行った。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	本人の行動や表情・会話等、日々の関わりあいの中から、思いや希望を汲みとるように努めている。
			(外部評価)	
			入居時、又、要介護認定更新時期や状態変化時にフェースシートを更新している。	利用者が一人ひとりのペースで主体的に暮らせるような取り組みの工夫が期待される。事業所は看取りまで支援する事業所でもあり、意思表示が難しくなった利用者についても、チームで本人本位に検討できるように、利用者の情報の蓄積に取り組んでほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	本人様や家族様から生活歴や趣向等の情報を得ることで、これまでの暮らしの把握に努めている。 前事業所の担当者の方にも連絡をとり、情報提供をしていただいている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	日々の生活において“できない部分”のみに焦点をあてるのではなく、“できる部分”の把握に努め、その有する力を活用できるようにしている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	<p>本人様や家族様の要望に応じた介護計画の作成を行っている。担当者会議や職員とともにモニタリングを行うことにより計画に添った支援ができていないか、また現状にあった計画となっているのかの振り返りもできている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>家族からケアへの要望を聞き、計画に反映している。支援内容は日々の介護記録に記入して、1ヶ月毎に支援経過としてまとめている。それらを用いて半年ごとに評価を行っている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	<p>個別にファイルを作成し利用者様の様子やケアの実践内容等を記入している。 申し送り、記録の確認を行うことにより、情報の共有を図りケアプランの見直しにも役立てている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	<p>法人内では訪問介護や通所介護、施設や介護タクシーの運営をしておりその時々にも生まれるニーズに対応することができる。 また、連携している事業所も多くあるため柔軟な支援が可能となっている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	<p>地域で行われる行事への参加、学校との交流会を開いている。 また、地域のボランティア団体や消防団の方々とも連携をとっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人様、家族様と相談をしっかりとやり取りを決めている。医療連携している機関だけでなく、入居前からのかかりつけ医を希望されれば対応している。 個別に受診ノートを作成し必ず目を通すようにしている。受診の結果は家族様にも報告しまた相談等も行っている。</p> <p>(外部評価) 看護職員を配置しており、医療機関との橋渡し等を行っている。又、看取り支援時等には、職員に利用者の状況や今後どのような経緯をたどるか等を説明してケアのサポートをしている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 職員と看護師間で看護記録を作成することで、全ての職員で情報の共有を図ることができている。 また、看護師より利用者様の健康管理や医療面での相談・助言をもらうことで適切な受診ができる体制が整っている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入退院時には職員が同行し、入院時にはホームでの生活スタイル等の情報提供を、退院時には今後の治療方法や退院してからの支援方法に関する情報提供の交換を行っている。 病院が行っている交流会にも参加している。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居時に終末期の支援の在り方について話し合う機会を設けたり、重度化がみられてきた際にはこれからの支援の方法について本人様、家族様、職員、状況に応じて医師も交えての相談も行っている。</p> <p>(外部評価) 「わしはここにおる」という利用者本人の意思表示や家族の希望等を踏まえて、かかりつけ医と連携して看取り支援した事例がある。家族が遠方のため、亡くなった後は、家族の代行で支援した部分もあった。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) AEDを設置し使用方法の講習や、救急救命の仕方の研修も行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練と毎月防火自主点検を実施している。見えやすい場所に室内図を貼り、車いすが必要な方の居室には車いすのマークをつけて、緊急時、外部の方が援助したださる際に分かりやすいようにしている。 (外部評価) 7月には、消防署の協力を得て火災想定で避難訓練を行った。12月には、地震を想定した訓練を行った。消防団に事業所内の見学をしてもらっている。運営推進会議時には、訓練時の報告を行い、意見交換を行っている。毎月、消防署が示す消防用設備等、自主点検チェック票の項目に沿って点検を行っている。	災害発生時に、地域と協力し合えるような体制作りが期待される。防災についての地域の取り組みを知り、又、事業所で協力できることを示し、お互いが協力し合えるような体制を作してほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症を正しく理解することで、利用者様への声かけや言葉使いに気をつけるよう職員への意識向上を図っている。 (外部評価) 昼食後に薬をこぼした利用者には、職員はティッシュをさりげなく用意していた。又、お若い頃の話をする利用者には、活躍していた頃のエピソードを少し話して、会話が弾むようにサポートをしていた。午前中には、活動的に過ごせるように体操したり散歩したりする時間を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員本位の介護ではなく、本人様主体の生活が送られるよう心掛けている。衣類の選択、外出、食事等、日常生活の場においてなるべく多く、本人様が自己決定できるような機会をつくっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 規則正しい生活を行うために1日の基本となる流れはあるが、その中で個々の生活スタイルやその日の体調等に合わせた、本人様の希望に応じた支援を可能な限り行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替えの準備の際には本人様に洋服を選んでいただいている。 化粧品や衣類等、本人様と一緒に買い物に出かけ本人様に選んでいただくようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜や魚等の食材を見ていただき何が食べたいか、どのような調理法がいいのか相談している。 ひとりひとりが役割を持ち、下準備や台拭き、下膳等をされている。 (外部評価) 利用者に食べたいものを聞き、両ユニットの職員で話し合い献立を立てている。利用者は煮物を好まれるようで季節の野菜の煮物がよく上る。利用者の一人が、ホワイトボードにメニューを書き、食事前に発表してくれる。職員は、利用者と一緒に菜園に野菜を取りに行ったり、買い出しに行ったりしており、利用者によっては玉ねぎの皮むき等を一緒に行えるよう支援している。調査訪問時には、下膳をする利用者がみられた。歯磨きは、朝・夕支援しており、昼は各自に任せている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の状態に合わせた食事形態での提供や水分の提供を行い、個々に記録している。好き嫌いやアレルギーに関しては可能な限り別メニューでの提供を行っている。栄養バランスに関しては定期的に栄養士の指導を受けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯ブラシ・口腔ガーゼ・口腔スポンジ等、個々の状態にあわせて見守り及び介助を行っている。 口腔内の清潔を保つことで、誤嚥防止や食欲促進につなげている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック法を活用することで、個人の排泄リズムの把握を行っており、排泄のサインを職員が把握することでスムーズなトイレ誘導を行うことができている。	
			(外部評価) 排泄記録をもとにして支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の原因を追究するとともに、適度な運動、水分や乳製品の摂取、栄養士の食事管理等により自然排便を行っている。 自然排便が困難な利用者様は医師と相談し服薬にて調整している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 勤務体制等により基本的な入浴日は決まっているが、この日に入浴を希望されない方や体調の悪い方は、別の日にシャワー浴等にて対応している。 好きな入浴剤を選んでいただくことで楽しめる入浴を行っている。	
			(外部評価) 週に3日入浴日を設けており、午後からが入浴時間となっている。両ユニットの利用者が、リフト浴と一般浴のある1階ユニットの浴室を使用しており、職員2名体制で支援している。 入居前利用していた事業所で同性介助を希望していた利用者があり、事業所では、職員体制上、同性介助での支援が難しく、事情を本人に伝えることを予定していたが、実際、本人から同性介助の希望はなかったようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間を決めるのではなく眠りたい時に眠れるように支援している。眠れない時は、テレビを見たり温かい飲み物の提供等を行っている。 スムーズな入眠ができるように室温調整や照明調整を行っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋一覧表を作成しており、受診時や服薬変更時には記入し、全職員が確認し理解をするようにしている。副作用等がみられた際には、受診や連絡調整を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人様や家族様から生活歴や趣味等を聴き、ひとりひとりにあった余暇活動(カラオケ、編み物、散歩、読書等)を取り入れるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者様の希望を聴き、体調や天候、季節等に合わせて外出支援を行っている。柔軟な対応ができる少人数での外出や、年に数回、車をレンタルしての大人数での外出も行っている。	
			(外部評価) 午前中は外に出て過ごす時間を持てるよう支援している。調査訪問時には、歩行器を使って飼い犬がいる場所まで様子を見に行く利用者の様子が見られた。季節ごとに花を見に行ったり、外食や道の駅、足湯等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ひとりひとりが買い物バッグを持っており、受診の帰りや外出した際にお土産やジュース等を買われている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人様の希望に応じて電話をかけたり手紙を書いたりできるようにしている。居室で気兼ねなくゆっくり電話ができるように子機を使用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 花を活けたり、作品を展示したりすることで季節感を味わえるようにしている。 ダイニングテーブルだけでなくソファも置きゆったりと過ごせる空間作りをしている。	
			(外部評価) 玄関には生け花を飾ったり、カメを飼ったりしており、利用者が世話をしている。居間では、テーブルを3つ設置して、利用者の関係性等を踏まえて席順に配慮している。廊下で歩行練習している利用者の様子が見られた。居間側に流し台があり、利用者が使用できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 2.3人で座れるソファを置いたり、音楽や映像を楽しむための機械を設置したりして居心地のよい空間作りをしている。また、ホール横には和室もあり畳の上でくつろげるようになっている。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使われていた布団や衣類等、タンスやソファ等持参していただいたり、居室にご家族の写真を飾ったりしている。 荷物の運搬が困難な方にはお手伝いをさせていただいている。	
			(外部評価) 居室内で転倒があった際には、ベッドサイドにポータブルトイレを付けて、安全に使用できるよう対策を講じた。朝は、個々に布団をたたんでおり、利用者の状態に応じて職員が手伝っている。クローゼットの中に衣類や排泄用品を整理している。日中、利用者は居間で過ごす方が多く、又、持ち込み物は少な目のこともあり、室内はシンプルな雰囲気となっている。家族来訪時には、職員がイスとテーブルを用意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりの設置や車いす対応のトイレを設置しており、歩行困難な方や車いすの方でも安全に暮らせるよう配慮している。風呂場にはリフト浴も備えている。 居室やトイレには分かりやすいように名前表示をしている。	
			(外部評価)	